

令和6年度投稿

俳句

(十一月)

菊の香を まとふ身体と してめぐる

(仙巖園 児島 豊)

秋空を 花も彩る 菊まつり

(仙巖園 濱崎雅人)

さざなみが 遠く聞こえる 砂湯かな

(城山 ねお)

近頃の 夜のおかずは さくらじま

(城山 パセリ帝国)

秋風に 頬を赤らめ 桜島

(城山 はるたん44歳)

川柳

(十一月)

錦江湾 湾をワンと 呼ぶ我がお嫁

(仙巖園)

延岡からきました)

麦生田の ゴーカート対決 負け運転

(城山 ねお)

短歌

(十一月)

日の本に ○○富士は 数あれど

秀麗一は 薩摩富士なり

(仙巖園 濱崎雅人)

秋空に 噴煙上げて 佇むは

菊を纏いし 桜島なり

(仙巖園 濱崎雅人)

二分咲きの 黄色菊に 形取られ

満開を待つ 三重の塔

(仙巖園)

加治木の浜ちゃん)

西郷(せご) どんの 息吹感じる 終焉地

夕日輝く 桜島の秋

(城山 三輪尋子)

いつまでも 上手くならない 自撮り

雲と一緒に ボヤけた桜島

(城山 字余り足らず)